

# DADA



## 種保存庫用のレンガ造りが始まりました。

DADA 会報4号をお届けいたします。

今号では、8月から9月にかけて出張してまいりましたジンバブウェの様子と、種保存庫建設に関する途中経過をお伝えいたします。上の写真は、種保存庫に使用するレンガ造りの様子です。川沿いの粘土質の土を使い、大量のレンガが日干しされていました。詳しくは次頁以降でご報告しています。

また、このたび、調布市市民活動支援センターの助成事業えんがわファンドより助成を頂きました。助成は、今年度の後半の活動の中心となる4回連続のアフリカ理解講座に使わせていただきます。(同封のチラシもあわせてご覧ください)。

DADAは今年で活動5年目になりました。これからもどうぞよろしくお願いたします。

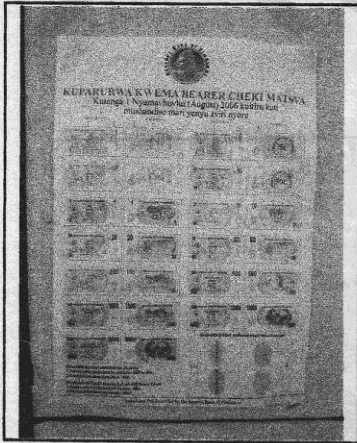
### 目次

● ジンバブウェ出張報告 .....	2
● 種保存庫建設 途中経過のご報告 .....	3・5
● ご報告 えんがわファンド・活動一覧 .....	6
● 追悼 吉國恒雄さん .....	7
● えんがわミーティング報告・アフリカクリッパー報告 .....	8

(はさみこみで連続講座のお知らせがあります)

## ■ジンバブウェ出張報告■

今年(2006年)の8月から9月にかけてジンバブウェを訪問してまいりました。この間のジンバブウェの状況と、支援中の種保存庫建設についてご報告申し上げます。(尾関)



### ジンバブウェ近況：デノミ決行

8月最大のできごとは、政府がデノミを実施したことです。日本でも第二次大戦後まもなく実施されましたが、現行通貨の3桁が切り捨てられました。(1000Zドルが1Zドルに変更)。これによって使用されていた紙幣のうち、500Zドル(5セントに変更)と1000Zドル(1ドルに変更)紙幣を除く全貨幣が無効となり、インフレが顕著になってから導入されたベアラーズチェック(銀行券)も新券に変更となりました。(左は、新ベアラーズチェックを説明する中央銀行のポスター)

ところが、この旧貨幣および旧ベアラーズチェック(旧券)と新ベアラーズチェック(新券)の交換期限は、発表からわずか21日という異例の短さ。しかも、大量の額を交換する際には、理由を証明する書類が必要になるという嚴重さでした。これは、闇市場を封じ込める戦略と思われましたが、人々には大打撃。交換期限の8月21日を前に、市内の銀行では、黒いビニール袋(日本のごみ袋でいうと70リットル入りの大きさ)やジュラルミンのスーツケースを抱えて窓口の順番を待つ人であふれかえっていました。

商売をしている人は、どうしても現金を店や自宅に保管しておく必要がありますから、細かい紙幣で持っていることとなります。袋から出した旧紙幣は窓口の紙幣カウンターで丁寧に数えられてから口座に入金されます。現金との交換は原則なく、口座から引き出す際に新券が手に入るという方法です。銀行では一日中、この紙幣カウンターの鳴る音が響いており、8月の銀行は、休日返上で対応に追われていました。

銀行口座を持たない人が多く住む農村地帯では、中央銀行がスタッフを派遣して、学校や集会場などで現金を新券と交換していましたが、間に合わない地域も出て、一部の農村では交換期限を延長するなどの措置がとられるなど、8月は混乱の月でした。

また、この間、主要幹線道路では検問が厳しくしかれていました。これは、闇で交換して隠し持たれていた旧紙幣を新紙幣交換前に取り締まろうとする対策。ハラレからマシゴまでは300キロありますが、その間6回の検問にあうという状況でした。

肝心のインフレですが、これで歯止めがかかるかと思いきや、そうではなさそう。最近入手した情報では、相変わらず闇市場ではジンバブウェドルが下落しているという話です。雨季直前の時期に、種や肥料など、現金のいる農家にとって、厳しい“夏”が来ています。

1 Zドル=ジンバブウェドルの略



## ■ジンバブウェ出張報告■

**種保存庫建設 途中経過のご報告**

8月のジンバブウェは乾季の真只中。表紙の写真の通り、種保存庫用のレンガ造りが始まっていました。保存庫の建設は、ガソリンの不足などの関係から遅れている灌漑工事、農業省の審査などの影響で、今乾季中の着工は難しい状況になっていますが、レンガ造りは、村の若者が大勢参加して順調に進んでいます。(報告：尾関)

**レンガ造り始まる**

上述したとおり、種保存庫建設の着工は来年の3～4月の雨季明けまで延期となってしまいましたが、種保存庫用のレンガ造りは始まっています。レンガの一部は着工が先行している農産物加工センター用に使われますが、そのほとんどは、種保存庫用のレンガです。

レンガは、川沿いの粘土質の土を使い、枠にいれて固め、日干ししてから後日火を入れて焼くという方法をとっています。わたし達が訪れた時は、日干ししている最中でした。レンガ造りは、乾季の間だけ行われ、日干しされ、焼かれたレンガは雨を避けて室内で次の乾季に着工するまで保存されます。

**シャシェ村トレーニングセンターについて**

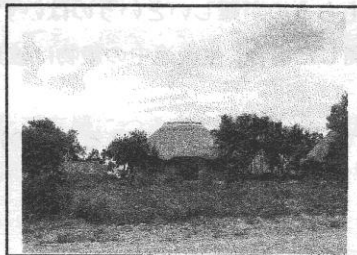
種保存庫の建設が遅れている状況をご説明する前に、DADA 支援先の AZTREC の活動の全体象を少しお話しします。

AZTREC は昨年からはシャシェ村に活動の拠点を移していますが、そこではトレーニングセンターを中心に様々な活動がおこなわれています。現在は、**トレーニングセンター**に加えて**トレーニング参加者用宿泊施設**、**農場**があります。**トレーニングセンター**は、村の集会場も兼ねており、キオスクと呼ばれる雑貨屋があり、雑貨屋やセンターの管理、トレーニング参加者の食事を作るスタッフが常駐しています。

**農場**は、畑と畜舎(牛・やぎ)があり、収穫は自給にまわされる以外は村や町で販売され、その売上は活動費に充てられます。農場は、その他にも農業の技法などのモデルとなる実験農場、育苗場(ハーブや野菜の苗木、穀物の種など)と多目的な意味を持っています。

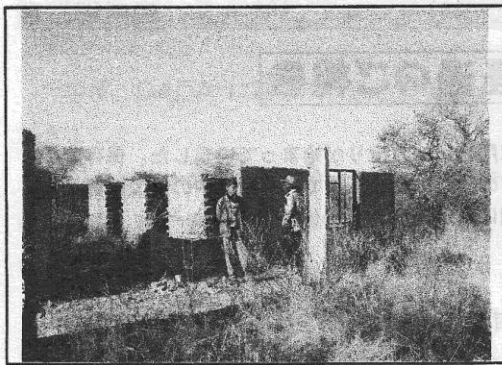
これらの施設に加え、**宿泊施設の増設**、**農産物加工品センター**、**種保存庫**、**穀物庫**の建設が予定されており、資金の目処がついているのは、このうち、**農産物加工センター**と**種保存庫**の2つです。

スタッフは、シャシェ村に入植した時点でそれぞれ自分たちの畑を入手しましたので、AZTREC の活動をしながら、家族と一緒に農作業をする、という日常を送っています。スタッフは、シャシェ、ジムトにそれぞれ駐在しています。代表と会計担当は、マシゴとシャシェを往復しているという状態です。というのも、シャシェには電気はなく、携帯電話も村の高台で時々通じる、という程度で、そのため電話やコンピューターへの入力、メールなどの作業をするにはマシゴに出る必要があるのです。



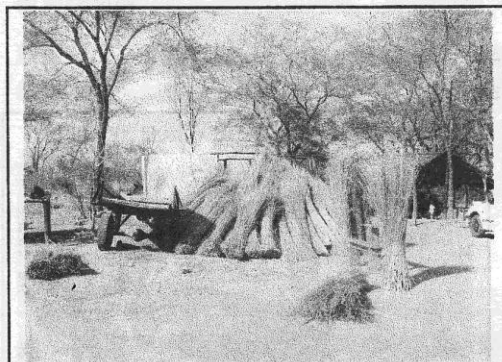
写真左：トレーニングセンター

写真右：トレーニング参加者用宿泊施設。左の丸い石垣は元農場主が建てた深井戸。



### 加工センター建設資金到着遅れる

当初、昨年(2005年)の5月～8月に、イギリスのドナーの支援を受けて農産物加工センターが建設され、今年(2006年)の5月～8月(乾季)には種保存庫が建築される予定になっていました。ところが、ドナー側の都合で支払いが大幅に遅れ、今年8月ようやく送金されてきたという状況です。しかも、ドナーは「送金したお金は2006年12月末日までに使い切るように」という条件をつけてきたのです。8月は前述したとおりデノミで国全体が混乱している最中。総経費は、このインフレで予算額を大幅に越してしまいました。これに対して、AZTRECは、次のような策をとることにしました。



(写真は、村人が集めた屋根に敷く萱)。

- ・ **資金が足りない点について:** 宿泊施設は、地元の資源(レンガと茅葺の屋根)でできることから、余裕がある時に少しずつ進めていきましたが、すでに壁(レンガ)ができている一軒(左上写真)を加工センターとして使用することにし、ドナーからの支援は、建設部分ではなく、機材(製粉機など)に充てることにしました。

- ・ **期限について:** 機材などの購入をすぐに行うだけでなく、12月末日の時点で購入された機材が加工センター内に設置されているよう、センターの建設も今年中(つまり乾季の10月まで)に終わらせることを最優先させることとしました。

### 灌漑工事滞る

ところで、シャシェ村では、AZTRECの様々な建設計画とは別に、水資源省の事業として200ヘクタールの面積に灌漑設備を敷くという計画があり既に着工されていました。予定では、今年の10月までに灌漑が完成し、11月から灌漑をつかって主食のメイズ(白とうもろこし)を生産し、よい出来のものを種として保存していく。そのためにAZTRECは2006年10月までに種保存庫を完成させるという計画でした。

ところが、このインフレとガソリン不足で、灌漑工事が中断されたままになってしまいました。(次頁右上写真)ガソリンがないために、ブルドーザーを動かすこともできず、灌漑用地に放置されている状態です。

AZTRECでは、雨季になるので灌漑建築を中断してもらって穀物を生産するということも考えたのですが、その場合、果たして3・4月になった時に、予定通り工事が再開するかどうか分からない(省庁の仕事は、いったんキャンセルすると再開してもらうのが難しいというのはいずれも同じ様です)。よって、灌漑予定地で耕作を始めた後で灌漑工事が再開した場合、生産途中の穀物は破棄されることは覚悟の上で生産を始める、とのことでした。

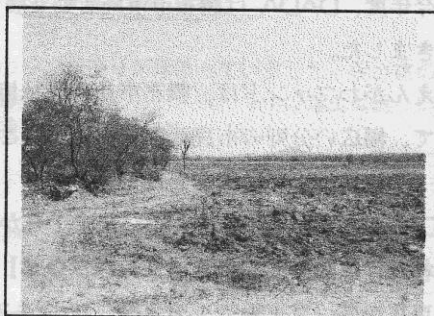
いずれにしろ、来年の3・4月の時点で、(種として保存できるほどの)大量の収穫は望めないということになりました。



### 農業省シードサービス

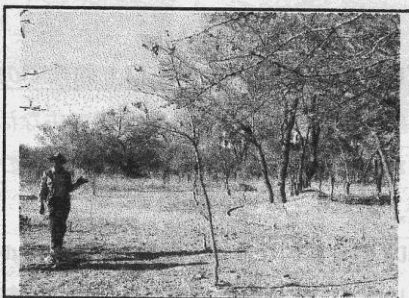
AZTREC では、種の生産について、長い時間がかかっても、ゆくゆくは国の承認を得て種を市販することを目指しています。そのためにも、最初から、その基準を満たすための条件を少しずつでも整えていきたいという意向です。DADA が支援する種保存庫も、その一環のものとして AZTREC の中で位置づけられているのです。

その為には農業省の指導が不可欠です。農業省からは、すでに何度か審査がはいつており、畑の位置(周囲の畑や人家との距離など)、種まきから収穫まで生産のあらゆる段階で審査され、その都度指導がはいるわけですが、種生産のための畑は、灌漑設備予定地であり、灌漑工事の進行が停まっているため、次の段階の審査・指導に進めない状態になっています。このことから、種保存庫建設については急がないほうが懸命ではないか、と AZTREC は考えています。



### 着工開始は来年4～5月以降

以上のことから、AZTREC としては、今年度は加工センター建設を優先させ、灌漑工事再開の交渉を続ける、という2点に集中したいということになりました。乾季(4月～10月)の期間しか保存庫建設はできないため、種保存庫建設の着工開始は、来年の雨季明け(4月か5月)になります。(右写真は、種保存庫の予定地に立つ AZTREC 代表のコスマス氏。彼の足元には、目印としての石が積まれている)。



着工が遅れていることに関して、AZTREC 代表のコスマス氏からは、支援をしてくれている人に申し訳ないとしながらも、この状況をぜひわかってもらいたい。支援していただいた資金は、外貨口座に置いたままにしている(そうすると交換レートへの影響が少なくて済むため)。資金を少しでも無駄にしないためにもよく検討し、今は建設を急がないほうがよいと判断した。DADA の支援者の方々は、AZTREC の方向性や種保存庫の意義を理解してくれて支援してくれていると信じている。もちろん、物品や機材を購入して、そのレシートをお見せすることはできる。でも、種保存庫が完成したことにはならない。どうか、状況をご理解いただいて、種保存庫が出来上がるまで、見守っていただきたい、とのメッセージを頂いています。

それでも、少しずつでも進めたいとして、表紙の写真にあるように、レンガ造りだけでも始めた、そのいきさつを話してくれました。

DADA としましても、着工の遅れは残念ですが、この悪条件の中で最善を尽くしている AZTREC の意向を尊重し、気長に待ちたいと思っています。

ご支援くださった皆様におかれましても、何卒ご理解をいただけますよう、お願い申し上げます。

また、資金を渡した後にいただいたご支援につきましては、来年度以降、生じるであろう建設資金不足分に充てていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## ■ご報告■ えんがわファンドから助成を受けました。

今年度、DADA は調布市市民活動支援センターの助成事業である「えんがわファンド」の助成をいただきました。

えんがわファンドは、調布市社会福祉協議会市民活動支援センターが、「自立した市民社会の創造に向けて、幅広い分野の市民活動を支援することを目的として」設立されたファンドです。DADA の他に 10 団体（学校含む）が助成を受けています。

DADA では、この助成を頂いて 11 月から 2 月まで、月一回計 4 回の連続講座【**アフリカ連続理解講座 これだけは知っておきたいジンバブウェ**】を開催いたします。

西東京地域（京王線や小田急線、JR 中央線、JR 南武線沿線）にお住まいの方はもちろん、会場は京王線新宿駅からそれぞれ国領駅まで 19 分<sup>2</sup>、調布駅まで 14 分<sup>3</sup>と、実は意外に近い！場所ですので、ぜひ皆様お誘いあわせの上、ご参加ください。詳細は、今号に同封いたしましたチラシをご覧ください。

なお、当日ボランティアも募集中です。事務局 [dada-africa@nifty.com](mailto:dada-africa@nifty.com)までご連絡ください。

スタッフ一同、お待ちしております。

## ■ご報告■ 4月から11月上旬までの活動一覧

今年度 4 月から 11 月上旬までの主な活動をまとめてみました。前半は、ジンバブウェの出張が中心でしたが、後半は、自主講座も加わり講演の機会が多くなりました。ウェブやブログでもご報告していますので、あわせてご覧ください。

DADA の日常的な連絡・議論は、Eメールと電話ですが、定期ミーティングや事務局作業日にも会合を持っています。定期的な作業日を設定して、気軽に見学・参加してもらえそうな仕組みも考えていきたいと思っています。ご意見・ご質問、お待ちしております。

4月18日 会計ミーティング	7月22日 AJF お話広場
4月20日～5月10日 ジンバブウェ出張	7月25日 会計ミーティング
5月11日 NGO/JICA 相互研修検討委員会	8月2日～9月4日 ジンバブウェ出張
5月26日 会報3号印刷・発送	9月7日 NGO/JICA 相互研修検討委員会
5月31日 会計ミーティング	9月14日～16日 NGO/JICA 相互研修
6月7日 スタッフミーティング	9月21日 JICA つくば野菜栽培技術 II コース講義
6月16日 NGO/JICA 相互研修検討委員会	9月28日 会計ミーティング
6月17日 理事会	10月12日 奈良県近畿大学農学部自主ゼミ
6月24日 調布市西部公民館で講演 「アフリカの大地に希望の種を播く」	ASANTE 主催 GMO シンポジウムで 講演
7月1日 あくろす利用者会議に参加。	10月18日 えんがわミーティング（6頁をご覧ください）
7月6日 NGO/JICA 相互研修検討委員会	10月19日 スタッフミーティング
7月15日 JICA 横浜 教師海外研修派遣前研修で講義	11月2日 事務局作業
	11月7日 PARC 自由学校で講座

<sup>2</sup> 国領駅：京王線新宿駅から急行でつつじヶ丘駅行き、各駅停車に乗り換えて 2 駅。（乗換時間は含みません）

<sup>3</sup> 調布駅：京王線新宿駅から特急または準特急で 2 駅目。

### 追悼 吉國恒雄さん

ジンバブウェ現代歴史研究者の吉國恒雄（よしくに・つねお）さんが 2006 年 8 月 3 日、お亡くなりになりました。

吉國恒雄さんは 1947 年、鹿児島県生まれ。サンフランシスコ州立大学文学部史学科 B.A. 課程終了後、ジンバブウェ大学大学院史学研究科で歴史学の博士号を取得されました。同大学で博士号を取得した数少ない「外国人」研究者の一人であるだけでなく、著作の殆どが英語で書かれており、現在もっとも引用されることの多い研究者の一人であったと言われています。

母語の日本語ではなく、英語で書かれる理由を、「ジンバブウェの人に読んでもらいたいから」（『初期植民地期ジンバブウェ・ハラレの社会史—アフリカ人都市経験の史的考察』、吉國恒雄ジンバブウェ社会史編集発行会・インパクト出版会 あとがきより）とおっしゃっていました。また、ジンバブウェの日本語表記は、「ジンバブエ」が一般的ですが、より現地での発音に近づけるよう「ジンバブウェ」とされていらっしゃる研究者のお一人でもありました。

今、ジンバブウェの書店で吉國さんの著書が並んでいる風景が思い浮かび、必要であるといいながらも英文ニュースレターやウェブサイトをまだ作っていないわたし達に、「誰と向き合って仕事をしているのか」と静かに問いかけられているような思いがしています。

長くジンバブウェに滞在されていたこと、英語での出版が多いことなどから、あまり日本での著書は多くないのですが、1999年に講談社現代新書（1473）から発行された『グレートジンバブウェ—東南アフリカの歴史世界』は、南部アフリカを訪れる人の必読書と呼ばれるべきだと、わたし達は思っています。

遺作となってしまいましたが、ジンバブウェの出版社 Weaver Press から出版予定の「Black Migrants in a White City: A Social History of African Harare, 1890-1925」は、ジンバブウェ大学に出した博士論文の改訂版です。出版となりました時には、また誌面でご紹介したいと思います。

ご療養中にジンバブウェのヴンバ（Vumba）という地域で生産されるコーヒーをお届けした際、「霧の丘陵、深い森、元気なツツジ、秘密の花園のごとき植物園などなどを思い出さしてくれた」とお礼状をいただいたことがあります。お元気になられたら、吉國さんの見てこられたジンバブウェについてお話をおうかがいしたいと皆で思っておりましたが、実現しないままになってしまい、とても残念でなりません。

ご冥福をお祈りいたします。

なお、上記にご紹介した『グレートジンバブウェ—東南アフリカの歴史世界』は、講談社では品切れ重版未定となっていますが、最近はおンデマンドという方法も生まれてきています。購入希望者が多ければ、再版も不可能ではありません。図書館や古本屋さんで見つけれなかった皆様、ぜひ講談社に問い合わせで再版を希望してください。一人でも多くの方に読んでいただきたい書物です。

### えんがわミーティングに参加しました。

去る10月18日、調布市で行われた2006年度第2回えんがわミーティング（市民活動支援センター利用者のつどい）に参加しました。これは同センター利用団体によるトーク&ワークショップと、利用団体間との交流とを兼ねたもので、今回は尾関が講師を務め、佐藤がアシスタントで参加しました。

「目指せ1%！私の自給率・地元率～アフリカからまなぶ本当の生活力～」と題し、簡単な参加者自己紹介のあと、「お弁当ワークショップ」を行いました。自分たちの“自給率”“地元率”（今回は幅広く国産、地元産、自分で作っているもの全てを“自給”ととらえました）がどれくらいかをチェックするものなのですが、自宅で栽培しているものを食べている方、食べ物はなんでも国産！という方など、予想以上に“食べ物はどこから来ているか”に日ごろ注意されている方が多い印象を受けました。ただし、「生協でとっているから国産」という声もありましたが、生協によっては国産ではないものも多いこと、“国産”と表示されていても、厳密には国内で作られているものではないものもあることなど、“国産”をめぐる意見も飛び交いました。参加者の“アフリカ”に対する関心も高かったため、多くの写真を用いてジンバブエの概況や村の様子、農業のあり方などをご紹介しました。DADAの活動を紹介するというよりは、活動を通じて伝えたいメッセージを直接伝える機会になったのではないかと思います。

「お弁当ワークショップ」はDADA初めての試みで、まだまだ改善の余地がありますが、継続的に実施していければと思っています。

### 引き続き、アフリカクリッパー（ボランティア）募集中！

【アフリカクリッパーとは】アフリカ記事の切り抜きは、DADAのメディアウォッチプロジェクトの一環です。これは、日本でのアフリカ報道について考える機会を持つことを目的としています。皆さんがご家庭で購読している新聞のアフリカ関連記事が掲載されているページを切り取り、DADAに送って下さい。（既にクリッピング頂いている新聞の名前については、ホームページをご覧になるか担当者までお問い合わせ下さい）。

#### 【アフリカクリッパーにお願いしていること】

- 新聞記事を月ごとにまとめ、翌月始めに事務局宛てに郵送
- エクセルで作成したフォーマット（集計票）への入力
- DADAに送ってくださる送料もご負担いただくと助かります…

参加ご希望の方は、ぜひDADA事務局（[dada-africa@nifty.com](mailto:dada-africa@nifty.com)）までご連絡下さい。

### //編集後記//

- 10月某日DADAのミーティング前にみんなでとんかつ屋に集合してお昼を食べる。肉を食べない私の目当ては、カキフライ。なのに、カキフライは11月からだといわれた。仕方なく、エビフライ定食を。これまた量が多すぎて苦しかった…が幸せ（本）
- 先日、調布で行われた「えんがわミーティング」に3歳の息子と一緒に参加した。ジンバブエの写真に興味津々だったのはいいが、思ったことをそのまま口に出す。その声が多よ通る。会場のはじっこにはじっこにいたのだけれど、結局父親と散歩に行ってもらった…。いつか必ず一緒にジンバブエに行こうね。写真で見た景色や人々に直接会いに行こうね！（佐）
- 海外にいるスタッフや友人、知人からメールが入る。日本語で書いてきたメールでもなぜかそこに距離を感じる。ここまでメールに依存できるほど自分が言葉に長けているのか、本当に相手の言いたいことを理解しているのか不安になるときがある。コミュニケーションって難しい。ましてや、ジンバブエの人とどのくらい…？（廣）
- 出張から戻ったとたんに講演や研修の連続。録音やビデオを録るなどして自分で見直しができるようにしてはいるものの、案外、感想や反応はわかりにくいものです。そんな中、参加者からのアンケートをまとめてくださったのは上述の「えんがわミーティング」。参考になりました。まだまだ講演は続きますので、がんばらなくては。（尾）

### 会報 DADA 第4号 2006年11月8日発行

《編集責任者》尾関葉子 《編集スタッフ》本田真智子、廣内かおり、佐藤由規

《発行人》尾関葉子

《発行所》DADA アフリカと日本の開発のための対話プロジェクト

(Dialogue and Action for Development Alternatives in Africa and Japan)

郵便物送付先：（東京）〒182-0022 調布市国領2-5-15 調布市市民プラザ あくろす  
市民活動支援センター内 ボックスNo.7 DADA  
（沖縄）〒900-0013 那覇市牧志3-2-10 ぶんかテンプス館3階  
那覇市NPO活動支援センター気付 DADA

FAX：042-484-9810 E-mail：[dada-africa@nifty.com](mailto:dada-africa@nifty.com) URL：<http://homepage3.nifty.com/DADA/>

※この会報は古紙100%のリサイクル紙を使用しています。





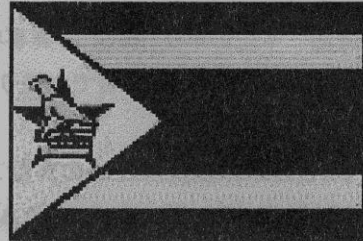
アフリカ連続理解講座

# これだけは知っておきたいジンバブウェ

DADA（アフリカと日本の開発のための対話プロジェクト）では、調布市内でアフリカ南部の国『ジンバブウェ』に関する連続理解講座を開催します。（本講座は、（社福）調布市社会福祉協議会市民活動支援センターの「平成18年度 えんがわファンド」の助成を受けています）

この講座のお勧めポイントは4つ！

1. ジンバブウェの歴史が1時間でわかる。
2. 音楽と料理で、何かと忙しい師走に、身も心も癒される♪
3. ジンバブウェから見る世界観に触れられる。
4. 報道の世界のからくりが垣間見られる。



連続講座ですが、1回でも参加ができます。

ジンバブウェを理解して、自分たちの暮らしとどうつながっているのか一緒に考えてみませんか？

## 第1回 歴史は誰のものか？ ～外の見方、内の見方～

講師 尾関葉子(DADA代表)

11月25日(土)午後2時から3時半 (開場午後1時50分)

会場 あくろすホール1 調布市市民プラザあくろす3F (京王線国領駅北口駅前 1階が西友の建物の3階)

<http://www.choufu-across.jp/> TEL 042-443-1211

## 第2回 音楽とクリスマスのタベ ～ジンバブウェの親指ピアノを楽しむ～

講師 サジ・マランガ氏 ※親指ピアノをお持ちの方は当日ご持参ください。

12月9日(土) 午後5時から午後8時 (ワンドリンク・食事つき)

会場 みさとや・野菜食堂 (京王線調布駅東口から徒歩5分) <http://www.misatoya.net>

〒182-0024 調布市布田 2-2-6 TEL: 042-487-1714

## 第3回 畑から見るジンバブウェ ～現状と世界のつながり～

講師 尾関葉子(DADA代表)

2007年1月27日(土)午後2時から3時半 (開場午後1時50分)

会場 あくろすホール2 調布市市民プラザあくろす3F (京王線国領駅北口駅前 TEL042-443-1211)

## 第4回 情報はどこから？ アフリカ報道 ～ジャーナリスト座談会～

講師 毎日新聞社 藤原章生氏 (元毎日新聞ヨハネスブルグ支局長。開高健ノンフィクション賞受賞)

『絵はがきにされた少年』著者) 他、ジャーナリストの方に交渉中。

2月17日(土) 午後6時から午後8時 (開場午後5時半)

会場 調布市文化会館たづくり12階 大会議場 (京王線調布駅南口から徒歩3分) TEL 042-441-6111

<http://www.chofu-culture-community.org/>

DADA: アフリカと日本の開発のための対話プロジェクト

(Dialogue & Action for Development Alternatives in Africa and Japan)

資料代 第1回、3回 300円

第2回 500円 (ただし、ワンドリンク付食事代として別途2000円いただきます)

第4回 500円

(当日ご持参ください)

※ 全回参加の場合1500円でご参加いただけます。初回に受けつけいたします。

## 主催 アフリカと日本の開発のための対話プロジェクト

### 協賛: 多摩女性学研究会

お申し込み方法 下記の申込用紙に必要事項を記入の上FAXまたはメールにてDADA (FAX042-484-9810、メールdada-africa@nifty.com) までお送りください。もちろん当日のご参加も歓迎です。

## DADA:アフリカと日本の開発のための対話プロジェクト

(Dialogue & Action for Development Alternatives in Africa and Japan)

182-0022 東京都調布市国領町2-5-15 調布市市民プラザあくろす

市民活動支援センター内 メールボックス No.7 DADA

電話(平日10時から16時) 月、木曜日=070-5464-5799(佐藤)

火、水、金曜日=090-2941-9280(尾関)

E-mail [dada-africa@nifty.com](mailto:dada-africa@nifty.com) <http://homepage3.nifty.com/DADA/>

DADA:アフリカと日本の開発のための対話プロジェクト (Dialogued and Action for Development Alternatives in Africa and Japan) は、アフリカ開発協力に関わってきた女性5人が中心になってきた団体です。(DADAはスワヒリ語で“お姉さん達”、ショナ語では“誇り”を意味します。)

DADAは、外部から【開発事業】を持ち込むのではなく、アフリカの人と一緒に考え、話し合い、彼らの活動を外部者としてどう応援できるのか、その方法を考えながら行動しています。

具体的には、ヨハネスブルグサミットで開かれたアフリカ10数カ国の農民集会への支援(ジンバブウェ農民の渡航費の一部支援)、ハイブリッドではない種(種を自家採取できる品種)購入の支援、生産物販路獲得のための共同調査実施等をジンバブウェ中部の農村で展開しています。

また、日本国内では、今回のような講演会、原稿執筆、会報発行によるアフリカ情報の発信のほか、『メディア・ウォッチ』(全国の各新聞に掲載するアフリカ関連記事のチェック、現在も参加ボランティア募集中)、『目指せ!自給率1%運動』等を展開しています。

## 申込用紙

お申し込み講座 ※お申し込み講座の( )に丸をお付けください

( ) 第1回 11月25日(土)

(○) 第2回 12月9日(土)

( ) 第3回 1月27日(土)

(○) 第4回 2月17日(土)

お名前(ふりがな)

石黒 紀子

住所

電話&FAX

メールアドレス